

## 1章 「ウォーカブルなまちづくり」を推進する意義

### 刺激に満ちた出逢い・発見をもたらす「ウォーカブルなまちづくり」により、大丸有は変容する

- 大丸有は、これまでのまちづくりの取組の結果、高質で賑わいのあるわが国の中枢業務拠点としての発展を遂げることが出来た。しかしながら、依然として大企業のワーカーが働くためのまちとしての性格が強く、同質的な居心地の良さがある一方でそれが弱みともなっている。多様な価値観・生き方・カルチャーを受け入れ、イノベーションを喚起するまちとなるためには、**大丸有は変わらなければならない。**
- 「ウォーカブルなまちづくり」について、「居心地が良く歩きたくなる」という意味に留まらず、また、大丸有のみで閉じた考え方をせず、**ともに東京都心を構成する周辺エリアや今までの大丸有とは異なる人・モノ・カルチャーとの出逢い・交流を誘発するための新たな都市戦略**と捉え直した。
- この考え方下、**異なるものとの連携、作りこみすぎないオープンでパブリックな空間の再構築、まちに関わる人々の“個”としてのコミュニティ形成の促進等によって、刺激に満ちた出逢い・発見のあるまちへと変容していく。**
- 異なる人・モノ・カルチャーとの出逢い・交流は、時として摩擦や衝突を伴うが、その先にこそイノベーションがあり、ひいては「国際的に見ても競争力・魅力あるまち」への進化に繋がる。

## 2章 ウォーカブル形成方針

「ウォーカブルなまちづくり」を通じて目指す姿と、その実現に向けた3つの方向性、3つの手法を設定する。また、特に重点的に取組を進める場所として、主要なウォーカブル軸とフォーカルゾーンを定め、それぞれの形成方針を示す。

**目指す姿** 「エリアを越えた連携」×「多様な活動を支えるオープンな場・マインド」による、**刺激に満ちた出逢い・発見のあるまち**

### 方向性1：エリアを越えて異なるものが連携することで新たな可能性を開く

エリアや組織の枠を越え異なるものと連携することにより、周辺エリアを含めた東京都心の価値を向上させる。一人ひとりにとっても、仕事の繋がりに留まらない、新たな関係構築が可能なまちとなる。

### 方向性2：作り込みすぎない空間やオープンでパブリックな空間により、多様な活動を支える

空間に余地を残すことで、誰もが関わることのできる空間を創出する。屋内外をシームレスにつなぎ、活動や賑わいが滲み出すパーミアビリティ(浸透性)の高いまちなかを創出することで、偶発的な出逢いを生み出す。

### 方向性3：異なる人・モノ・カルチャーが交わり、刺激に満ちた出逢い・発見が生まれる

まちとして寛容性・鷹揚さを備え、従来の大丸有エリアにはなかった人・モノ・カルチャーとの交錯や摩擦・衝突を積極的に受け入れることで、刺激に満ちた出逢い・発見が生まれる。

### 手法1：コミュニティ形成をサポートする

既存のビジネスコミュニティだけでなく、個人の嗜好・関心に沿ったコミュニティ形成のサポートにより、多様な活動を促す。属性の異なる主体が集まる場を作ること、個の多面性がまちに現れ、真に愛着を持てる場を育ていく。

### 手法2：オープンでコモン的な低層部を作っていく

多様な過ごし方が出来るよう、パブリックスペースと建物を一体的に活用し、まちの魅力や賑わいが滲み出すオープンでコモン的な低層部を作っていく。

### 手法3：まちなかの余地やちょっとしたきっかけを仕掛けていく

使い方を限定せず、空間を作りこみすぎない。人々が思い思いに過ごし、活用できる余地を残す。また、人がまちに関わりたくなるきっかけを仕掛け、異なる人・モノ・カルチャーとの刺激に満ちた出逢い・発見（時として摩擦・衝突）が生まれていく。

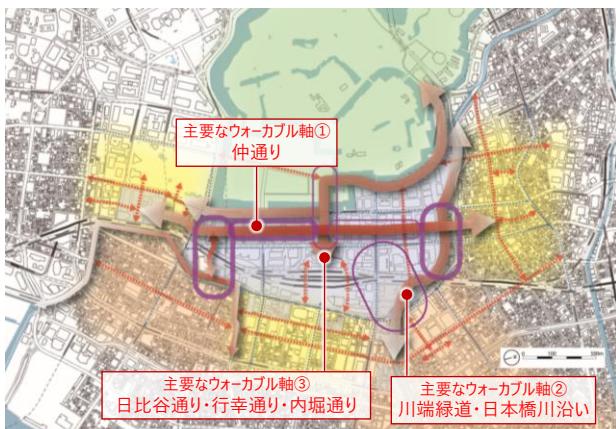
### 主要なウォーカブル軸

大丸有エリアのみに閉じることなく、周辺エリアを含めた東京都心で捉え、「大丸有エリアと周辺エリアがつながる通り」や「今後更なる活用が期待される通り」として現時点で3軸を設定

### フォーカルゾーン

主要なウォーカブル軸において、「周辺との往来が活発化する場所」や「更なる活用が期待される場所」として現時点で6ゾーンを設定

凡例	名称
	主要なウォーカブル軸
	フォーカルゾーン



ウォーカブル形成方針図

## 3章 フォーカルゾーンの空間構成・マネジメント

6つの「フォーカルゾーン」の内、近い将来で特に動きが見込まれる3カ所について具体的な空間構成・マネジメントを示す。

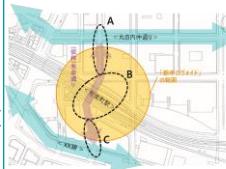
### フォーカルゾーン①：有楽町駅周辺

#### 東京を代表するグローバルな出逢い・交流が創出される賑わいある空間

エリアMICE、都市観光、イノベーションの機能向上を通じ、世界から注目を惹く**出逢い・交流・発信の拠点を形成**する。地区内外を結び、人々が行き交い賑わう軸線(仮称)有楽通りを整備するとともに、自由な回遊や都市活動を支える「公的領域の連続的配置」を進める。

#### 空間構成・マネジメントのポイント

- ユニークベニューをはじめ、多様な空間資源を一体的に活用できる仕組みづくりを、周辺エリアや他のMICE拠点との連携におけるハブとなって進めることで、まちぐるみの「エリアMICE」の実現を図る。
- 飲食・商業・宿泊といった**都市観光機能**の集積をより強化するほか、映画や舞台芸術の夜間上映・上演や飲食店の深夜営業等、ナイトライフコンテンツの充実を進めることで、ワーカー・MICE参加者・観光客等、属性を超えた多様な人々を受け入れる“街の社交場”を創出する。
- アイデアピッチや展覧会等の会場として公的空間を用いることで、異能・多彩な起業家・アーティスト等の存在を表出させるとともに、エリア周辺の企業も含めて相互交流をサポートすることで、**イノベーション創発**を図る。
- ヴォイドと軸・通りによる「公的領域の連続的配置」を進め、**自由な移動や都市活動の展開**を支える。とりわけ「(仮称)有楽通り」は象徴的な通りとして、多様な空間を緩やかに接続させることで、人々が行き交い賑わう軸線を形成する。



### フォーカルゾーン②：丸の内仲通り（丸の内二・三丁目）

#### 人々が憩い・集う華やかな賑わいが通りから街区にも滲み出す空間

**丸の内仲通りのより一層の歩行者優先化**を進めるとともに、ビルの低層部と通りのシームレスな繋がりがりや高質化された空間を活かすことで、属性の異なる**多様な人々がグラウンドレベルで集い・交流**したくなる場を創出する。

#### 空間構成・マネジメントのポイント

- 屋内外の活動が可視化された透過性の高い建物ファサード等を設けることで、賑わいが通りや他街区に滲み出す**浸透性の高い空間**を創出し、人々の活動や多様なコミュニティ形成を更に促進させる。
- まちづくりの先駆的な取組を実施したり、可動式の椅子・テーブル・植栽等を設置したりすることで、来街者が思い思いに過ごし柔軟に活用できる空間を創出し、多様な人々の滞在を促し、属性の異なる人同士の偶発的な出逢いを**生み出して**いく。
- 前面道路のテラス化や、道路と建物内通路の接続等、屋内外をシームレスに繋げることで、**道路と建物の一体的な活用**を促進するとともに、周辺施設と連携した活用により、これまでにないエリアMICEの実現を支える。



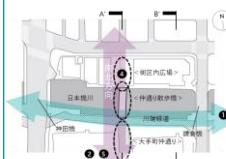
### フォーカルゾーン④：川端緑道＋大手町仲通り延伸部

#### 神田との接点・川沿いの特性を活かした暮らし・憩い・あそびといった用途が共存する空間

日本橋川の水と川端緑道の緑を感じられる**貴重な都市のオアシス**として整備を進めるとともに、エリア間の往来を促し、神田の人々(居住者・学生・老舗店舗等)や大丸有エリアのワーカーの接点とする。従来の大丸有で中心的な属性のワーカーに加えて、異なる人・モノ・カルチャーが共存する場を形成する。

#### 空間構成・マネジメントのポイント

- 何にでも使える広場の空間をあえて作ることで、**訪れる人が自由に使いこなす余地**をつくる。
- 一人静かに佇むことのできる場の他、**歩ける範囲の暮らしを支える場**(ドッグパーク、キッズパーク等)、異なる人・モノ・カルチャーとの摩擦・衝突を受け入れ今までにない機能や活動を**試験的に導入する場**(ストリートカルチャー、音楽ライブ等)として、時間・空間で濃淡をつけながら活用し、**神田と大手町の文化・特性が滲み出す空間**とする。
- 将来的な水質浄化により綺麗になった日本橋川を公的空間として活用する他、水と自然を感じられる建物低層部やテラスの活用を行う等、**親水空間の創出**を行う。



## 4章 エリア全体において推進すべきマネジメント 5章 未来像

「ウォーカブルなまちづくり」を推進するにあたり、エリア全体で推進するマネジメントの方針を示す。また、ウォーカブルなまちづくりの実践によって、実現する「未来像」を提示する。

### 本ビジョンをまちづくりの主体と共有し、連携していく

本ビジョンの共有を進め、様々な主体と連携を図りながら、「ウォーカブルなまちづくり」を進めていく。ウォーカブルな取組を後押しする制度等も柔軟に活用しながら、取組を前進させていく。

### 「3つの手法」に基づいて、ウォーカブルなまちづくりの具体的な取組を進める

「3つの手法(2章参照)」に基づいた具体的な取組を、周辺エリアと連携しながら進めていく。大丸有は、摩擦や衝突を伴いながらも、少しずつ、しかし確実に変容していく。

### ウォーカブルな取組が蓄積すると、今までの大丸有とは異なる未来像が実現する

ウォーカブルな取組が実践されていくにつれて、異なる人・モノ・カルチャーとの交流が生まれ、「刺激に満ちた出逢い・発見のある」まちが実現する。



(例) 異なる人・モノ・カルチャーとの交流が「祭り」を通して実現する様子

## ウォーカブル形成方針図

周辺エリアを含めた東京都心で捉え、「ウォーカブルなまちづくり」により刺激に満ちた出会い・発見のあるまちの形成を目指す。

### 主要なウォーカブル軸①：仲通り

大丸有エリアを南北に貫く通りとして、大丸有エリア及び東京都心を代表する人中心・ヒューマンスケールの空間を形成する。丸の内仲通りの賑わいを南北に伸ばすとともに、日比谷、銀座、神田と大丸有エリアの繋がり・一体感を強化していく。

#### フォーカルゾーン①：有楽町駅周辺

東京を代表するグローバルな出会い・交流が創出される賑わいある空間

エリアMICE、都市観光、イノベーションの機能向上を通じ、世界から注目を惹く**出会い・交流・発信の拠点**を形成する。地区内外を結び、人々が行き交い賑わう軸線「(仮称)有楽通り」を整備するとともに、自由な回遊や都市活動を支える「公的領域の連続的配置」を進める。

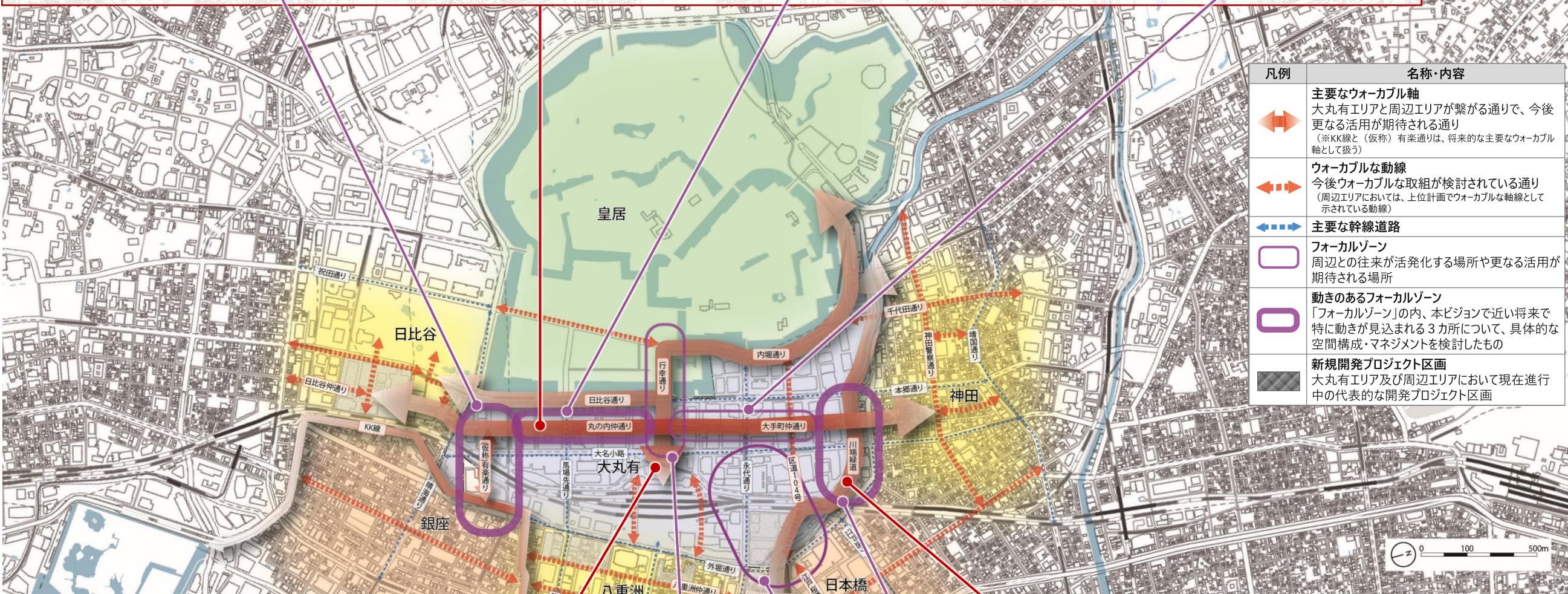
#### フォーカルゾーン②：丸の内仲通り（丸の内二・三丁目）

人々が憩い・集う華やかな賑わいが通りから街区にも滲みだす空間

丸の内仲通りのより一層の歩行者優先化を進めるとともに、ビルの低層部と通りのシームレスな繋がりや高質化された空間を活かすことで、**属性の異なる多様な人々がグランドレベルで集い・交流したくなる場**を創出する。

#### フォーカルゾーン③：仲通り(丸の内一丁目～大手町)

セットバックにより確保された歩行者空間、街区内の大規模な緑地空間、既存の飲食店による賑わいを活かし、開放的な屋外空間における出逢いを生む様々な活動を促す場とする。



### 主要なウォーカブル軸③：日比谷通り・行幸通り・内堀通り

皇居を望む通りとして、東京駅から皇居に至る行幸通りや、接続する日比谷通り・内堀通りにより、**皇居外苑の緑と整然とした建物群が織りなす都市景観をパノラマ的に眺望**することのできる**風格あるウォーカブル空間**を形成する。

#### フォーカルゾーン⑥：行幸通り

皇居の**風格・豊かな自然**を身近に感じられる開放感のある空間を活かし、公的行事や祝祭的なイベント等に柔軟に対応できるユニークベニューとしての活用や、皇居外苑の来訪者が道中を楽しめるようなこれまでになかった新しい空間活用を図る。

### 主要なウォーカブル軸②：川端緑道・日本橋川沿い

エリア間の接点となる日本橋川に**臨む水と緑の心地よいプロムナード的空間**として、近隣で働く人のみならず神田等地周辺住民の日々の営みや多様なカルチャーを受け入れる**寛容性の高いウォーカブル空間**を形成する。

#### フォーカルゾーン④：川端緑道＋大手町仲通り延伸部

神田との接点・川沿いという特性を活かした暮らし・憩い・あそびといった用途が共存する空間  
日本橋川の水と川端緑道の緑を感じられる**貴重な都市のオアシス**として整備を進めるとともに、エリア間の往来を促し、神田の人々(居住者・学生・老舗店舗等)や大丸有エリアのワーカーの接点とする。従来の大丸有エリアで中心的な属性のワーカーに加えて、異なる人・モノ・カルチャーが共存する場を形成する。

#### フォーカルゾーン⑤：TOKYO TORCH周辺

東京駅・丸の内側や日本橋方面からの来街者を歓迎するような空間整備、コンテンツを用意する。丸の内の華やかな賑わいや美化されたJR高架下、日本橋川沿いの親水空間、日本橋エリアの歴史的な景観等エリア毎に異なる空間を楽しみながら歩行者が往来できるように、道路等の公共空間と民地内のパブリックスペースも含めた**一体的な整備・活用**を行う。